



能面「小面」(江戸時代、東京国立博物館所蔵)

出典: 国立文化財機構所蔵品統合検索システム

(https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/C-1483)

夢幻想の物語ーイマーシブな能舞台へ

“Tales of Dream Reverie: An invitation to the Immersive Noh Stage”

「環動車」懇談会話題提供 2026/7/18

趣味の能楽学習者： 萩原 明房

私と謡曲のつきあい

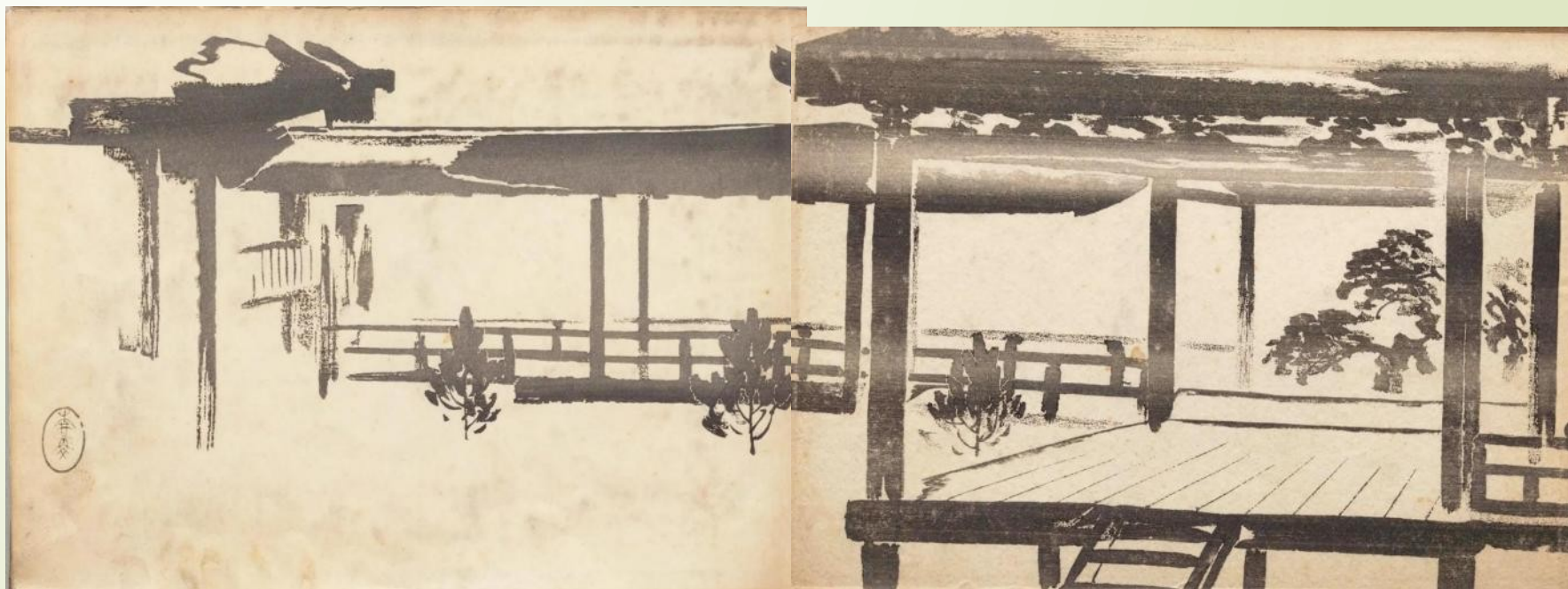
- オランダ在住時にアムステルダムで能『羽衣』を見る
- 帰国後、入社した会社の謡曲部入部
- 先輩の名誉師範（素人）に師事して観世流の謡曲を習い始める
- 職場関係の素人会で年6回舞台で謡う
- 五十歳頃に詞章の面白さに惹かれる
- 素人なりに詞章を物語にして楽しむ

（参考）幼少期は百人一首で遊ぶ
高校時代は古文・漢文赤点すれすれ
仕事は燃烧工学、化学工学、電気化学、
マテリアル生産工学、エネルギー工学



古典芸能「能」

- 大和猿楽の観阿弥（1333年～1384年）の子・世阿弥（1363年？-1443年？）が物真似中心の“猿楽”に田楽や近江猿楽の歌舞的要素を取り入れて、「能」の原型となる芸術性の高い「申楽」を大成した。
- 極限まで簡素化された舞台空間で舞、謡、囃子によりその世界が創り出される。



月岡耕漁, 松野奏風 [画] 『能画大鑑』 第1巻, 精美書院, 昭和5.

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1688677> (参照 2025-12-03)

舞 静と動に息づく心のかたち—幽玄の美



中啓 金地桐花戦模様

ちゅうけい きんじきりはないくさもよう

出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp>)



「羽衣」 耕漁 [画]

『能楽図繪』 前編 上, 松木平吉, [1901].

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1881032> (参照 2025-12-03)

能面 表情を変える面の魅力



能面 小面 永井恒澄作
江戸時代・17～18世紀制作
東京国立博物館所蔵

出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム

URL：https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/C-1483

能面 役柄に応じた表現



小面 C-1483



深井 C-59



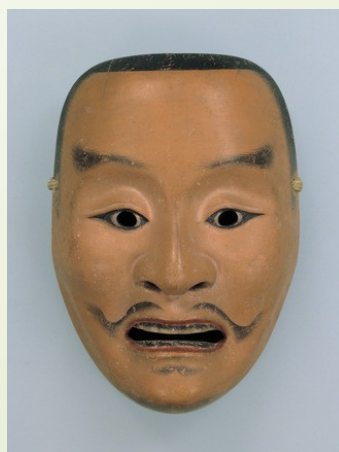
姥 C-1559



般若 C-1554



中将 C-1481



平太 C-28



小尉 C-
1529



顰 C-142

能装束 日常を超える美の装い



能「江口」

月岡耕漁, 松野奏風 [画] 『能画大鑑』

第1巻, 精美書院, 昭和5.

国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1688677> (参照 2025-12-10)



厚板 紅地桐唐草模様

あついた ベにじきりからくさもよう

国立文化財機構所蔵品統合検索システム

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/l-2038



唐織 緑紅茶段青海波花熨斗扇夕顔模様

からおり みどりべにちゃだんせいがいははなのしおうぎゆうがおもよう

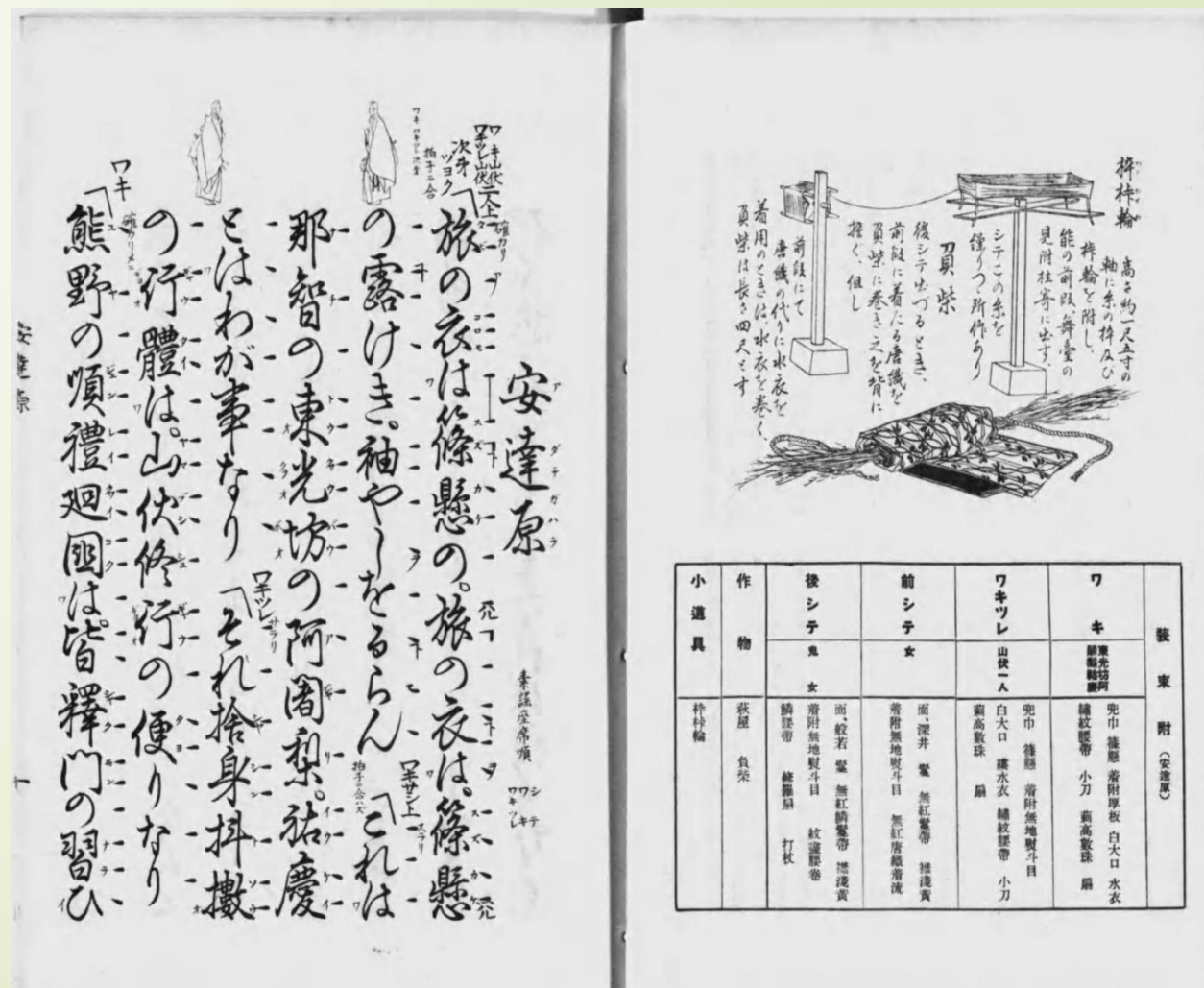
国立文化財機構所蔵品統合検索システム

https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/l-2023

謡本 能の台本・謡の楽譜



〔謡本〕『安達原』,〔慶長年間〕.
 国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1286886> (参照 2025-12-27)



廿四世観世左近 訂正『玉井・景清・杜若・二人静・安達原』, 桧書店, 昭和7.

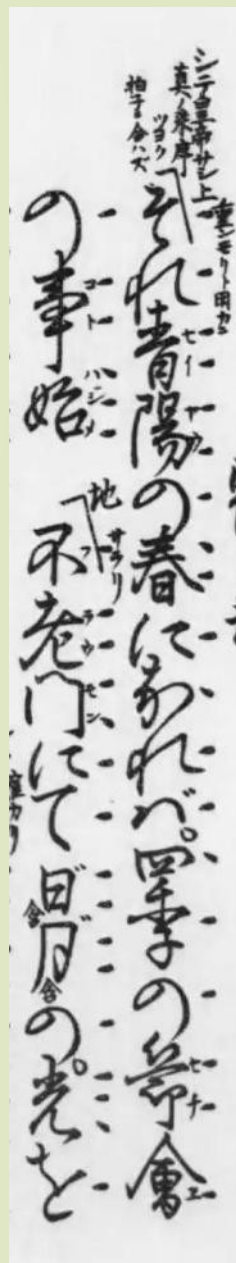
国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1103222> (参照 2025-12-07)

柔吟の音階	剛吟の音階
甲グリ	甲グリ
クリ	クリ
上のウキ	上のウキ
上音	上音・中音
中のウキ	下ノ中音・下音
中音	呂音
下音	
呂音	

- ＊相対音階：演者の声質
- ＊拍子と囃子
- ＊役柄と謡い方

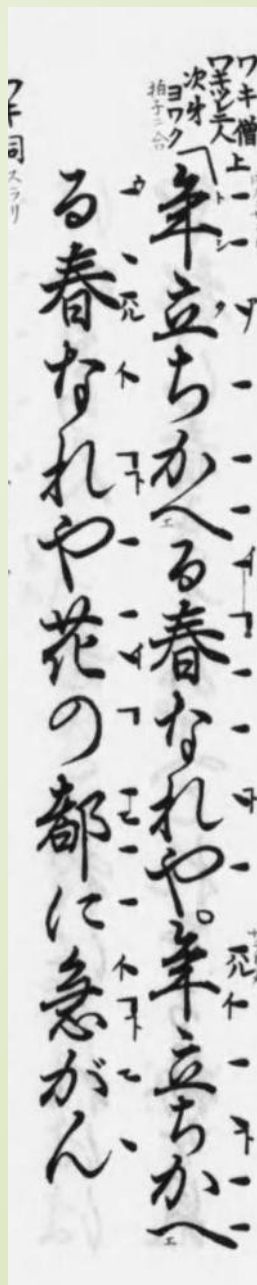
剛吟
(つよぎん)

廿四世観元、元滋訂正著作『観世流謡本』外巻之「鶴亀」和布刈、桧大瓜堂、大正二・国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/919945> (参照 2025-12-27)



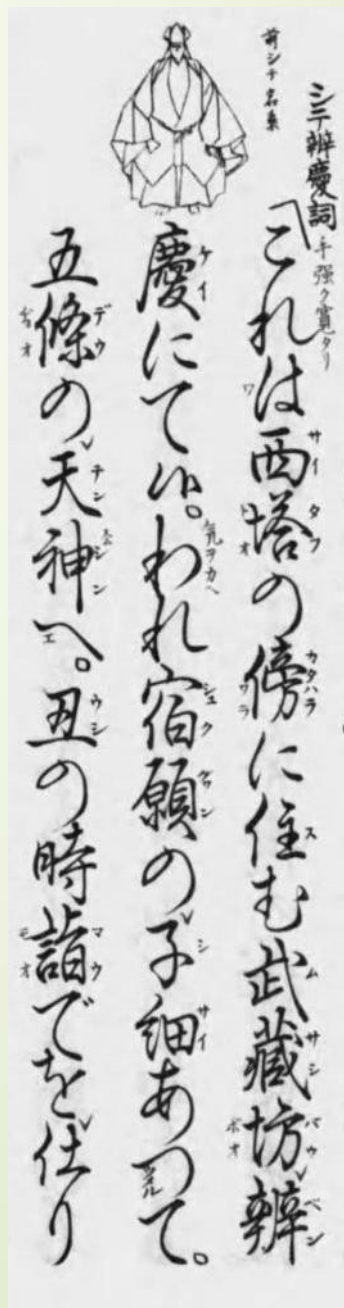
柔吟
(よわぎん)

廿四世観世左近訂正『三輪・安宅・東北・蟬丸・
 猩々』桧書店昭和8. 国立国会図書館デジタルコレク
 ション <https://dl.ndl.go.jp/pid/11022234> (参照2026
 01-03)



詞
(ことば)

廿四世親世左近訂正『項羽・橋弁慶・熊坂・小督・野
守』、絵書店昭和6、国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1101463> (参照 2026-01-03)



理解の壁 技巧を凝らした難解な詞章

ワキ「なほなほ業平の御事委しく御物語り候へ。
地謡「昔在原の中將。年経てここに石の上。古り
にし里も花の春。月の秋とて。住み給ひしに
シテ「その頃は紀の有常が娘と契り。妹背の心浅
からざりしに。又河内の国高安の里に。
知る人ありて二道に。忍びて通ひ給ひしに
「風吹けば沖つ白波龍田山。夜半にや君が
ひとりゆくらんとおぼつかなみのよるの道。
行方を想ふ心とげてよその契りはかれがれなり

「井筒」より

伊勢物語の和歌



和歌を楽しむ

伊勢物語第三十三

「こもり江」

むかし、男が摂津国菟原郡に通つていたところ、その女は男が今度帰ったら、もうやって来ないだろうと思っている様子なので歌を詠んだ

葦辺より

満ちくるしほのいやましに

君に心を思ひますかな

男は女への思いが深くなっているという。すると、女は男にこう歌を返した

こもり江に思ふ心をいかでかは

舟さす棹のさして知るべき

伊勢物語 第三十三段より

女の歌の意味：多様な受け止め方

ひっそりとかくれた

女の心はよめぬ

葦のしげる入江のような

わたしのおもい

そんな秘めたところへと

あなたの舟はとうてい

たどりつくことなどできないのです

(川上弘美訳)

「伊勢物語」、河出書房(二〇二三年)七二頁

人目にかくれた入り江のように、外にあらわれず
に心に深く思っているわたし^{わたし}の心を、あなたはどうか
してそれと知ることができましょう

(福井貞助訳)

日本古典文学全集第8巻、小学館(一九七四年)一六三頁

人目につかない入江のように人^人知れず思^思う心を、
どうして舟を進める棹なんかで指し示してそれと
しることができようか

(渡辺実訳)

新潮日本古典集成、新潮社(一九七六年)四八〜四九頁

深い入江にかくれるように

かくれて思ってください^{あなた}の心を

どうして舟さす棹のわたしが

はつきりさして知ることができましょう

(永井和子訳)

笠間文庫「伊勢物語」、笠間書店(二〇〇八年)七七頁

男の心はよめぬ

私が心に描く光景

こもり江に思ふ心をいかでかは

舟さす棹のさして知るべき

伊勢物語 第三十三段より

かくれた入り江

舟は棹を差して

深みを確かめるように進みますが

水底のありようなど

知ろうはずもございません

あなたを深くお慕いする心――

わたくしの思いが

そこに満ちておりますのに

お気づきにはならないのですね

詞章と漢詩文

松門獨り閉ぢて。年月を送り。
みづから。清光を見ざれば。

時の移るをも。庵室に徒らに眠り。

衣寒暖に與へざれば。膚は髡骨と衰

へたり

能『影清』の詞章

山宮一閉無開日未死此身不令出

松門到曉月徘徊柏城盡日風蕭瑟

松門柏城幽閉深聞蟬聽燕感光陰

漢詩「陵園妾」白居易

ひとたび門が閉ざされてしまうと生き
ている間は門外へでることは叶いません。
月は陵墓に立ち塞がる松林を明け方ま
で照らし、風は物寂しい音をさせながら
一日中吹きわたります。あまりに深く
覆われ、外界から遮断されているので、
蟬や燕の声を聞くことでしか時の経過
を知るほかはありません

習俗 例えば大念仏に見るグリーンフケア

人商人に連れられた子供が隅田川
河畔で行倒れになる。土地の人々は
哀れみ石塚を築く。一周忌法要の
日、偶然、都から子供を探しもとめ
て母親がやってくる。人々はやさし
く母親を迎え、大念仏の輪の中につ
つみこむ…。

南無や西方極楽世界。三十
六万億。同号同名阿弥陀仏。

能『隅田川』の大念仏

南無西方極楽世界三十六
万億一十一万九千五百同
号同名阿弥陀仏。

六斎念仏「眞光朗」

(出典) 奈良県教育委員会資料

初めて能を観る観客の反応？

どこを楽しむか？

- ＊舞台の非日常性：「異世界のような舞台空間」
- ＊能面や装束の美しさ：「視覚的な美」
- ＊謡・囃子・拍子（音楽）の迫力と新鮮な響き
- ＊「わからないけれど心地よい」という感覚

なぜ退屈に感じるか？

- ＊動きが少なく、テンポがゆっくり
- ＊言葉が古く、意味がわかりにくい
- ＊物語の背景を知らないと理解しづらい
- ＊自然と眠気をもよおす

直観 美の感受性の深化

柳宗悦 美しさの理解⇒「直観」（内覚）が必要。
「…眼が働きはするが、共に心も亦働くこと…」
「…主義主張等の知的理解が先に立てばもう直観は
その働きを曇らせて了ふ」
『民藝』編集委員 編『民藝』(195),日 ,1969-03.

私の仮定： 人間が「美しい」と感じる働きには、二つの層がある

生得的直観：

なめらかな曲線、柔かな動き、調和したリズム、対称性など

経験的直観：

時代の文化・生活のなかで後天的に形成されるもの

謡本小説化 イマーシブな受容への準備

"Tales of Dream Reverie: An invitation to the Immersive Noh Stage"

直接経験による受容

身体表現 舞 所作 装束 能面
音楽性 謡 囃子 拍子 間 静寂
舞台空間 象徴性 時間 簡素

暗黙知による受容

文学 物語 和歌 漢詩 民間伝承
歴史 宗教 思想 生死観
風俗 世相 時代の風

能舞台鑑賞における「直観」を豊かにする

イマーシブな受容：舞台との一体化

謡本小説化

*中世暗黙知のインプット
*現代感覚を加味した再構成

結語 これからも楽しみは続きます



物語に時代の風を吹き込み
バーチャルな空間を楽しむ
知識ではなく内覚を育て
そして、能楽堂に足を運ぶ

おまけ 将来やってみたいこと 英文翻訳

Lady Aoi

As autumn settles in, the Minister's residence takes on an even more captivating air of quiet refinement. The treetops by the pond and the clusters of shrubs along the garden streams have turned vivid in color, their hues blending gently with the glow of the evening sky to create a scene of serene beauty. From the eastern wing drift prayers for a safe childbirth, and the monks' solemn chants rise and fall with a weight that stirs the heart. Interwoven with their low recitations are the rustling of wind through the leaves and the ceaseless murmur of flowing water, each sound adding its own grace to the deepening dusk.